

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300073		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	埼玉県本庄市西富田653-1		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「まごころ」で暮らされている利用者様一人ひとりが、安心に、穏やかに、自分らしい生活を送っていただけるように支援していくとともに、「まごころ」が利用者様にとって居心地良い空間であり続けられるよう、環境や人間関係などすべてに配慮したケアを行い、利用者様の「今」を大切にしていきたいと考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

定期的に運営推進会議の回数を年6回実施し、更に運営

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成23年11月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の生活環境、生活習慣、地域に密着したその人らしい人間関係、基本的な介護、その人らしい個性的な空間、その人らしい役割づくり、利用者への母性的関わりを大切にするという七つの理念のもと、普段の支援やケアを行っている。施設内の雰囲気は明るく、利用者や職員が一緒になり、作品作りをしていたり、思い思いに過ごせるような工夫が見られる。近隣の住民との交流も良好で、ホームで実施している納涼祭にも近隣の住民やボランティア、自治会長や企業の方など、多くの方が参加してくれる。

身体拘束をしないことを方針で定めている。また職員は研修や会議でどのようなことが身体拘束に当たるのかを考え、日々のケアに取り組んでいる

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は常に掲げてあり、いつでも確認することができる。また、施設内研修や会議で話し合いを行い、理念に沿ったケアを心がけている。	理念は日々の会議や申し送り時に確認している。職員全員にどのようなケアを行っているかなどを考える機会を与え、理念に沿ったケアの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の買い物に同行していただき、近隣の皆様やお店の方とも顔なじみになられ、挨拶を交わされている。また、地域の納涼祭に招待していただき、参加している。	町内会に加入しており、納涼祭などに参加し近隣の住民と交流を図っている。ホームでの消防訓練にも近隣の住民も参加するなど良好な関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の方に認知症やグループホームについての理解をしていただくことができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の自治会長、近隣の方、家族、職員で外部評価についての説明、報告を行い、色々な意見を頂いた。そこでの意見は、全ての職員と共有し、改善やサービス向上に努めている。	定期的に行っている運営推進会議では、自治会長、近隣の住民、家族、職員の他に利用者も参加している。その時に出た意見などは、職員で検討し運営に反映し、ケアの向上に活かしている。	運営推進会議の回数を年6回実施し、更に運営やケアの向上に活かせるよう望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者が運営推進会議に参加され、アドバイスを頂いたり、相談にのっていただくことがあった。	市との交流は良好で、相談や連絡は密に取り関係継続を行っている。年2回の認知症対応型共同生活介護事業所の集団指導や法改正の説明等も行ってくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が理解している。また、折にふれ話し合いをしている。玄関については、高速インターにつながる国道近くのため、やむなく施錠している。	身体拘束をしないことを方針で定めている。また職員は研修や会議でどのようなことが身体拘束に当たるのかを考え、日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を職員が理解を深めることができるよう、研修などを行い、話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解するまでは至っていない。今後、勉強会など行い、理解を深めるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に時間をとり丁寧に説明を行っている。退去時の条件なども不安のないように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払い時や面会時など、家族が来訪されるときに、希望や意見を伺う機会が沢山あり、ホーム運営やケアの向上に活かしている。	運営推進会議や、来所時に意見や要望を伝えてくれる家族は多く、職員は話を伺いホームの運営に努めている。家族の意見を基に速やかに、運営に反映させた事も多くある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行っている。その都度、議題など皆で話し合っている。	会議や日常の会話の中から職員意見を吸い上げている。皆で考え話すことにより、整理が行え、運営やケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得すると資格手当が付き、やりがいにつながっている。職員の能力を見極め報酬アップも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会だけでなく、外部の研修参加を推進している。研修後は報告を行い、職員全体につながるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会会員として支部会に参加し、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談があった時には、本人に会いに行き、心身の状態を把握していく。また、コミュニケーションを十分とることに努め、不安の解消、今後の関係づくりにつなげていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、現状をゆっくりと聞くことで、信頼関係の構築につなげる。また、要望に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、当ホームが満床の時には他のホームを紹介する。また、医療について説明を十分に行い、必要なサービスが受けられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、受ける側ということではなく、「できることは一緒にやりましょう。」そして、やっていただいた時は「ありがとうございます。」を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には、ゆっくりと過ごしていただき利用者の状況を伝えている。また、要望、状況を聞き共に支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しかった友人が連れてって面会に来られ、とても和やかな時間を過ごされた。また、馴染みの美容院に行かれている方もいる。	馴染みの場との関係が少しでも継続できるように、職員ができる限り支援を行っている。友人が来所することもあり、環境整備にも心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつ時、職員も同じテーブルにつき会話をする。利用者同士が円滑な関係を保てるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時には見舞いに行くなど、これまでの関係性を大切にしている。退去された家族からも、ずっとここで過ごさせたかったとの言葉を頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに気づけるように日々のケアにあたっている。表情などにも常に気を配るように努めている。	職員全員で、日常会話や様子で思いや以降を把握している。散歩や、買い物、お祭りの参加など利用者の意向により、実際に出かけたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでの生活歴、情報等を共有し、これからに生かせるように努めている。また、情報などすぐに見ることができるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の生活リズムを、理解、把握し、変化に気づくことができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い暮らしを維持し、継続していく為に課題をあげ、職員間で話し合いをしている。ケアカンファレンスにおいても、十分に話し合いの場をもっている。	日常生活の中で、どのような計画が利用者にあっているのを考えている。その後、カンファレンス時に職員全員で話し合い、適切な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、業務日誌、排泄、食事、水分摂取、バイタルと夜間の様子を記録し、毎日のケアを行う為の情報としている。職員間で共有し変化に気づく体制をつくっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの要望に応えられるよう努めている。買い物や美容院なども本人の希望により対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用や傾聴ボランティアの来訪により、一緒に談話されたり、レクを行ったりして楽しい時間を過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の定期的な往診の他、入居前のかかりつけ医で医療を受けている方がいる。訪問歯科、訪問リハビリも希望で受けられるよう支援している。	かかりつけ医通院している利用者もおり、家族や職員の協力のもと、適切な医療を受けることができる。また協力医との関係も良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師には、往診時などに情報を伝え連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、看護師や相談員の方と連絡を取りあっている。また、家族とも連絡を取り、退院へ向けての支援の準備をしている。随時、見舞いも欠かさないよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師との連携を図りながらホームでできる範囲のことを行っている。	重度化や終末期に向けては家族適宜話し合いを行っている。最終的には医師、家族、施設の三者で話し合い、利用者にとってより良い支援ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人以外の職員は消防署において救命救急の講習を終了している。AEDの使用を方法なども見直しを行っている。また、急変時の対応も確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地区の方、近隣の方を交えて防災避難訓練を行っている。地区の方には協力を申し出ている。	年2回行っている避難訓練では、消防署立会の下避難経路の確認や水消火器を使用した訓練を行っている。近隣の住民も参加してくれるので、協力体制も万全である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせた声かけ対応をしていくよう心がけている。また、排泄介助は特に気をつけ配慮するよう努めている。	尊重やプライバシーを守れるような声掛けに心がけている。否定的な言葉がけやスピーチロックを行わず、その人らしさを損なわないよう支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望など、意思表示しやすい環境づくりやコミュニケーションを十分とるように日頃より努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日生活されている中で、その方のペースがあり、調子の悪い日もある。一人ひとりの、その日に合わせやりたいこと、やりたくないことをご自分で決めていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の方にはカットだけではなく、エステを受けられる。また、決まった美容室へ行き髪を染められる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、配膳、下膳、テーブル拭きなどできることは手伝いをさせていただいている。また、誕生会など催しの際は利用者の希望のメニューを作ることがある。	栄養士が作成しているメニューを基に、利用者と共に食事を作っている。十五夜に月見団子を作るなど、食事でも季節を感じられるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、きちんとカロリー計算された料理を提供している。食事や水分摂取量は毎日記録している。水分不足の時など好みの物や飲みやすいものを飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた声かけ、見守り、介助を行っている。義歯は週2回洗浄している。訪問歯科による指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に体調に留意し、排泄チェック表を確認するようにしている。個々の排泄パターンを把握し、その方に合った対応を心がけている。また、失敗時にはさりげなく対応、ケアをしている。	排泄パターンをしっかりと把握しており、一人ひとりに合わせた声かけを行っている。入居前に比べて改善された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、体操やホーム内歩行など身体を動かすことをしている。また、水分摂取量も常に気をつけている。ひどい便秘の場合は、医師の処方により服薬していただくこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴することを希望される方には、添えるよう時間を工夫している。ご本人が希望されたときは入浴できるように支援している。また、好まれない方にも、タイミングを計り入浴していただくようにしている。	利用者がゆっくりと入浴できるように、時間は問わず入浴ができる。入浴剤やゆず湯、しよぶ湯等楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の今までの生活習慣や体調に配慮し、いつでも自由に休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情ファイルがあり、いつでも確認できるようにしている。体調変化がみられたときは、随時医師に相談し、場合によっては薬を変更していただくこともある。服薬時、飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干すことやたたむことができる方には一緒に行って、手伝っていただいたら必ずお礼を言っている。皆様で力を合わせ、作品作りにも取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では、散歩、買い物に出かけられる。また、お花見や地域のお祭りにも行かれた。家族と一緒に墓参りや外食に出かけることもある。季節に合った外出を支援しています。	天候や体調に応じて日頃から散歩等に出かけている。季節に応じて桜や蓮、秋桜等見ぬ出かけている。また家族と外泊や温泉に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方がいるので、購入希望のものを一緒に買い物に出かける。大きい金額は事務所で預かっているが、欲しい物があれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されればいつでもできるように努めている。携帯電話を持っている方は自由に連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、安全の為の配慮にも努めている。また、季節に合わせて温度や湿度にも気をつけている。季節感を感じていただけるよう季節の花を飾っている。	天井が高く、広い共有空間はすのこを張る等直射日光が入らないようにしつつ、太陽の光が取り込めるような工夫がみられる。季節が感じられる掲示物を貼ったり、机の上に皆で作った造花を飾ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方がいたい場所で過ごせるよう支援している。さりげなく利用者の中に入り潤滑油の役目を果たすようにしている。カラオケなどを利用し、A棟、B棟の交流の機会もついている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団、家族との写真など自分の居室をつくっていただけるよう支援している。また、清掃も一緒に行い、清潔を心がけている。	一人ひとりの空間を大切にしており、馴染みの家具等が配置されている。マッサージ器やテレビなどその人らしい生活が送れるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等、十分な広さがあり、障害になるものは置かず安全に生活できるよう配慮している。		